

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	歴史と文化A
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報工学分野		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 『世界史B』 (山川出版社) 補助教材 『明解世界史図説 エスカリエ』 (帝国書院)、 『山川世界史小辞典』 (山川出版社) 『英文 詳説世界史』 (山川出版社) 『英語で読む高校世界史』 (講談社)、 『冷戦と福祉国家』 (日本経済評論社)、 『ヨーロッパ社会史』 (日本経済評論社)				
担当教員	瀧川 貴利				
到達目標					
1 世界史の流れを知ることができる。 2 ヨーロッパとアメリカなどの歴史的形成を知ることができる 3 第二次世界大戦後の社会史を知ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ヨーロッパ史やアメリカ史の流れを完全に把握している。	ヨーロッパ史やアメリカ史の流れをだいたい把握している	ヨーロッパ史やアメリカ史の流れを理解していない。		
評価項目2	ヨーロッパ世界やアメリカ世界が歴史的に形成されたことを十分に理解している。	ヨーロッパ世界やアメリカ世界が歴史的に形成されたことをだいたい理解している。	ヨーロッパ世界やアメリカ世界が歴史的に形成されたことをあまり理解していない。		
評価項目3	歴史的視点を持って、国際社会を批判的に考察する基礎力を持つことができる。	ヨーロッパ世界を歴史的に考察する基礎力がおおむねみについている。	歴史的に思考する力をみにつけていない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A JABEE a					
教育方法等					
概要	ヨーロッパ史やアメリカ史を勉強することで、異文化の理解を深めます。ヨーロッパ絵画や建築などの解説も行います。第二次世界大戦以降は、『冷戦と福祉国家』、『ヨーロッパ社会史』を参考にして講義します。				
授業の進め方・方法	教科書を用いますが、ヨーロッパ絵画や建築などについてプリントなどで詳しく解説します。第二次世界大戦以降は、「ヨーロッパ社会史」、「冷戦と福祉国家」を使用します。不合格者については、再試験または課題学習の評価が60点以上で合格とする。 ★関連科目： 倫理社会、現代社会、歴史総合、法学、哲学、歴史と文化B				
注意点	授業には必ず教科書と補助教材を持ってきてください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	先史時代・オリエントと地中海世界	シュメール人やアッカド人について理解できる。	
		2週	オリエントと地中海世界	バビロン第一王朝、エジプト、ヘブライ人について理解できる。	
		3週	オリエントと地中海世界	アッシリア帝国、アケメネス朝ペルシャについて理解できる	
		4週	"古代ギリシャ世界"	古代ギリシャの歴史について理解できる	
		5週	ヘレニズム 古代ローマ世界	古代ローマの歴史について理解できる	
		6週	古代ローマ世界	古代ローマの歴史について理解できる	
		7週	インドの古典文明 I	マガダ国について理解できる	
		8週	インドの古典文明 II	グプタ朝・ヴァルダナ朝について理解できる	
	2ndQ	9週	東南アジアの諸文明 II	同上	
		10週	東南アジアの諸文明 中国の古典文明 I	中国の古典文明について理解できる	
		11週	中国の古典文明 I	秦について理解できる	
		12週	中国の古典文明 南北アメリカ文明	漢と南北アメリカ文明について理解できる	
		13週	三国時代・晋	三国時代と晋について理解できる	
		14週	唐 新羅	唐と隣接諸国について理解できる	
		15週	イスラーム世界の形成	イスラーム世界の形成について理解できる。	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化について理解できる。	
		2週	ゲルマン人の大移動・フランク王国	ゲルマン人の大移動について理解できる。	
		3週	ビザンツ帝国・キエフ公国	ビザンツ帝国とキエフ公国について理解できる。	
		4週	トルコ人のイスラーム化と北宋	トルコ人のイスラーム化と北宋について理解できる。	
		5週	モンゴル帝国	ドイツ帝国の成立について理解できる。	
		6週	明・オスマン帝国	南北アメリカの発展について、理解できる。	
		7週	大航海時代・ルネサンス	大航海時代・ルネサンスなどについて、理解できる。	
		8週	重商主義	重商主義について理解できる	
	4thQ	9週	産業革命・アメリカ独立革命	産業革命とアメリカ独立革命を理解できる。	
		10週	ウィーン体制	ウィーン体制を理解できる。	

	11週	オスマン帝国の動揺や清朝の動揺	オスマン帝国や清朝の歴史を理解できる。
	12週	帝国主義	冷帝国主義を理解できる。
	13週	二つの世界大戦	第一次世界大戦と第二次世界大戦を理解できる
	14週	第二次世界大戦後のヨーロッパ	ヨーロッパ社会史を理解できる
	15週	現代	冷戦と福祉国家を理解できる。
	16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
			公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。				3		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	0	70
基礎的能力	70	0	0	0	0	30 (課題)	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0